

2011年3月に発生した東北地方太平洋沖地震から10年が経ちました。この10年の間にも防災に資する観測技術や情報通信技術は目覚ましく進展しました。鉄道の防災性能を高めるためには、まずは鉄道施設が健全性を保持し続けることが大切です。それとあわせて、気象や地震の情報をリアルタイムに取得し、その情報を適切に処理し列車運行などを制御して安全を確保することも重要です。今月の特集では「鉄道を支えるリアルタイム防災情報」に関する取り組みについて7編の記事を紹介

しました。データ分析やシミュレーションの技術は絶え間なく進歩しており、今後も防災情報のリアルタイム活用が進むと考えられます。

来月号の特集は「鉄道車両走行時の安全性向上」です。鉄道技術において安全の確保は最優先事項の一つであり、車両走行時の安全に着目した取り組みを紹介します。どうぞご期待ください。(N.I.)